

平成28年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

開催日時 平成28年10月19日(水) 13時30分～15時15分
開催場所 平塚市美術館 研修室
出席者 会長 水沢勉
委員 落合浩一、栗木雄剛、宮澤達寛、加藤宏、後藤真由美、岩城孝子
事務局 吉野教育長、高橋社会教育部長、草薙館長、小林副館長、土方館長代理、
近藤担当長、勝山学芸員、江口学芸員、家田学芸員、安部学芸員

傍聴者 なし

会議の概要

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委嘱状の交付
- 4 委員紹介
- 5 職員紹介
- 6 議題

(1) 平成28年度事業について

これまでの事業報告(事務局から説明)

作品 展覧会 教育普及 その他の事業 施設利用者等の統計

今後の事業予定(事務局から説明)

展覧会 教育普及 その他の事業

(2) その他

- 7 閉会

教育長あいさつ

委員の皆様には、お忙しい立場でありながら、美術館協議会委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。美術館は開館して25年が経ちました。展覧会事業だけではなく、幅広い世代を対象としたワークショップや講座などの「美術教育の普及・体験を図る事業」にも力を入れ、多くの方々が美術館を訪れています。

また10月16日のNHKの日曜美術館では、現在開催中の展覧会が放映され、平塚市美術館への注目や期待が高まっていると感じています。

委員の皆様には、美術館の事業や運営など貴重な御意見や御助言をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

委嘱状の交付

教育長から1名の新委員に委嘱状の交付を行いました。

議題及び質疑

(1) 平成28年度事業について これまでの事業報告

上期の展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業等を事務局から説明。

その他の事業、施設利用者等の統計、施設の管理や防災訓練等の内容等を事務局から説明。

展覧会事業について

- 委員 開催中の展覧会情報が新聞に掲載されていたが、さらに新聞掲載をしていただきたい。
- 事務局 広報は、広報担当者をおき、かなり力を入れている。公立美術館は宣伝費がないため、無料の媒体に対し集中的に行っている。新聞の週末美術館情報に展覧会情報を提供し、学芸員が新聞社に出向いて掲載依頼をしている。美術館の数が多く、掲載スペースが限られ困難な状況であるが以前に比べて平塚市美術館は取り上げていただいている。引き続き広報に力を入れていきたい。
- 委員 平塚市美術館を取り上げていただくことが多くなった。平塚市美術館の認知度は高まっているので広報活動を継続していただきたい。
- 事務局 有名美術館は掲載に苦労しないが、神奈川の美術館の掲載数は少ない。新聞掲載の仕組みは、一度展覧会を掲載するとその展覧会が終わるまで掲載する。途中から掲載するのは非常に難しい。新聞社に年度当初や最新の展覧会情報を提供しているが、どこの美術館も広報に力を入れているので常に掲載していただくのは難しい状況である。
- 委員 日曜美術館の取材は、NHKから事前に依頼があったのか。
- 事務局 日曜美術館は、非常に強力な美術館の宣伝となるが、情報提供だけではNHKに対してアピールができない、NHKまで出向き展覧会内容を説明し協力依頼をした。
- 委員 放映後の効果は、どうか。
- 事務局 問い合わせもかなりあり、展覧会後半に向けて観覧者が増えることを期待している。
- 会長 広報予算を確保するのは、非常に難しい。本来広報予算があるとありがたいが、公立美術館の場合、予算をつけるのは正直難しい。
- 委員 広報予算をつけてもらう方法は、何かないか。
- 会長 予算項目として広報を予算化するのは大変困難である。どの美術館も今の予算を維持するのが精一杯で、新しい予算項目を要求するのは難しい。全体の予算に余裕があれば可能だが、地道に新聞社や報道関係に依頼するのが現状である。日曜美術館で放映されることを美術館のホームページに掲載することも有効である。
- 委員 不思議なアートトリック展、学校図書館にもトリック本があり、展覧会は子どもたちにヒットしたのではないか。観覧者数約3万人に対し、小中学生はどのくらい観覧したのか。
- 事務局 不思議なアートトリック展は、普段美術館に足を運んでいただけない家族連れや祖父母との観覧が圧倒的に多かった。身近な所で美術を楽しんでいただき、市立美術館の役目を果たすことができ、大きな効果があった。アンケートでは、40代、50代、10代の順、また親子連れが多い傾向で観覧者数も歴代で第5位となった。

委員 学校観覧のうち中学校は来館しているが、市内小学校は来館していない。小学生は家族で個人的に来て、小学校としては来館しないのか。

事務局 中学校が多いのは、美術部単位で来館している。小学校の来館はこれから増えてくる。夏休みに入って親子連れの小学生の来館が多かった。4月から7月の小学校の来館は、なかなか学校として動きづらい時期と聞いている。

委員 中学生は、クラス単位で来館するのか。

事務局 中学生は、クラス単位では少ない。平塚市は美術館があり、子どもたちが美術に親近感をもってもらえるよう平成27年度から市内小学校に「対話による美術鑑賞」を実施している。平成27年度は1校、平成28年度は、3校の予定を5校に増やし、いずれは市内全小学校に広げていきたい。

教育普及事業について

委員 市内の生徒が美術館に足を運ぶ機会が少ない。スクールプログラムに教員向け研修会はあるが、美術教員を育成するようなプログラムがあると、教員を指導し生徒たちにもっと絵の面白さを伝えることが可能ではないか。

事務局 美術館だけで学校と連携していくのは難しい。「対話による美術鑑賞」を始めるにあたり、学校の理解が得られなければ難しい現状であったが、小学校から「美術館を使用して美術鑑賞をすることは、学校としてありがたい」と意見をいただいている。

委員 ヨーロッパの国立美術館で小学生低学年を対象に「対話による美術鑑賞」を行っていた。子どもたちの見る目が真剣で、子どもも大人も美術に溶け込んでいた。平塚市も頑張っていたきたい。

委員 美術館には学校教育に対する支援をしていただいている。市内のほぼ全校の中学校美術部が来館している、数年前までは見られなかった。中学校が美術館にクラス単位で来館するかは学校側が考えていかなければならない問題である。9月から11月に授業に組み入れて美術館に来館することは時期的に難しい。2月から3月なら来館しやすい。

事務局 美術館も2月から3月は、所蔵品を活用した展覧会を開催し、受け入れやすい時期である。

会長 所蔵品を活用した展覧会は、落ち着いて鑑賞することができ、生徒が鑑賞する上でもチャンスである。

平成28年度の今後の事業予定について

下半期の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局から説明。

その他の事業の内容等を事務局から説明。

教育普及事業について

委員 スクールプログラムの保育園児や小学生の移動手段は、どうなっているか。

事務局 保育園の移動は、バスや徒歩で来館している。バスの手配は、保育園側でしていただい

ている。「対話による美術鑑賞」で来館する小学校は、徒歩で来館可能な小学校や市のマイクロバスが利用可能な小学校に声を掛けている。今後、距離がある小学校については検討する必要がある。

委員
事務局 「ひらびあーつまーれ」は、時間的にどのくらいのプログラムを組んでいるのか。
ボランティアの育成として、一人立ちして「対話による美術鑑賞」のサポーターになれるようプログラムを月2回程度、半年から1年をかけてノウハウを持った委託業者の者と学芸員が実践教育を施し、訓練をしている。最終的にはボランティア一人一人が、小学生の小グループに対し、「対話による美術鑑賞」ができるようにしていきたい。

委員
事務局 子どもと実際に触れ合う時間はどれくらいか。
絵に向き合う時間は、15～20分程度である。絵の中でどのようなことが起きているか一人一人に意見を聞き、その中でコミュニケーション能力、聞く能力などを養っていく。

委員
事務局 中学生や高校生に対する実績はどうか。
中学生、高校生は受験等がありいろいろと難しい。適齢なのは小学校5年生くらいと考えている。

委員
事務局 美術教育の芸術鑑賞として、全ての学年を対象とした多くの人数が可能なプログラムは出来ないか。
多くの人数を対象として実施する場合は、展覧会の見どころ、気づいてほしい点を記載したワークシートを配布し、シートを見ながら作品について考えてもらうなどの対応をし、また、ギャラリートークも実施している。「対話による美術鑑賞」は、小人数のグループで実施するので、多人数を対象とするのは不可能である。

作品の収集について

会長 新収蔵作品は美術館が成長する様を伝えるものであり、美術館にとっても新鮮である。最近の所蔵品収集状況はどうか。

事務局 最近購入予算はなく新収蔵作品は、寄贈されたものである。美術館は自分たちの意志で作品を集めることが大切である。

会長 購入作品は、教育プログラムと組み合わせて活用できる。市民の財産であることをアピールすることもできるので何年かに1度は作品を購入し、コレクションに組み込んでいく。購入額は問わず、継続することが重要である。

事務局 作品を購入することにより、学芸員の目も育つことになる。

委員 選定評価委員会とは何か。

事務局 寄贈、寄託の作品が美術館のコレクションとしてふさわしいか、外部の先生方に検討していただく委員会である。

委員 作品購入予算について協議会委員が市に言える場はあるのか。

事務局 直接意見を述べる場はないが、協議会内容は会議録として公表する。市関係者、市民の方も目にするため、作品購入について意見が上がってくる可能性もある。

会長 予算をつけていただくのは、ハードルが高く、見通しは厳しいと思うが、委員として声を出していくことは重要である。

事務局 予算編成の際に、作品購入の要望をしていきたい。